

こうじ 工事の げんば 現場より

旧矢筈原家住宅 保存修理事業

9月4週目

今はこんな様子だよ。

修理現場から
文化力
POWER OF CULTURE



茅葺屋根の葺き替え作業もいよいよ大詰め、妻側の「鎧茅」の取付を行い、上から足場丸太を順次解体していきますながら、表面をきれいに整えていく作業を行っていきます。茅葺屋根の表面仕上げは大きな屋根ばさみを使って刈り取り滑らかな表面にするのが一般的ですが、今回「農家」である旧矢筈原家住宅の屋根ではきれいに整えすぎないほうが、より「民家らしい」と判断し、小さなハサミで長すぎる茅を切るなど、成形程度の刈込を実施しました。農村風景に相応しい、柔らかな仕上がりです。



屋根ハサミの使用例（見学会にて）

藤かけ

棟に置く棟積み茅（ムナガヤ）を固定するためのネソ等を掛ける材

よろいがや 鎧茅

破風（屋根の端部分）に整えた茅束を段を付けて取り付けしたもの。破風板と屋根との間の隙間を埋める役割と、見た目を良くするデザインとしての意味もあると考えられます。



※各部の名称は、同じ合掌造りでも地域により異なります。ここに記載している名称は『重要文化財旧矢筈原家住宅移築修理工事報告書』（1960年）に基づきます。



過去のお知らせはこちら



鎧茅の取付作業。かわいらしさもある装飾。



鎧茅の取付作業。ここでも小さなハサミで形を整えていく。



足場丸太

刈込作業を行いながら、上から順次足場丸太を解いて外して下りていく。



刈込、足場丸太の解体作業完了後の様子。柔らかな仕上がり。